2027年 3月期

第2四半期（中間期）決算説明会

2026年 11月10日

杏林製薬株式会社

- 2027年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算の概況
- 2027年3月期 連結業績予想の修正
- 中期経営計画「Vision 110 −Stage2−」の進捗

2027年3月期 第2四半期（中間期）業績のポイント／対予想

（単位：億円）

		27年3月期 中間期予想 （26年5月12日発表）	27年3月期 中間期実績	対予想	
				差異	達成率（%）
売上高		**578**	**575**	**-3**	**99.5**
	新医薬品等（国内）	407	404	-3	99.2
	新医薬品（海外）	2	2	0	118.4
	後発医薬品	167	169	+2	101.1
売上原価		**－**	**351**	**－**	**－**
売上総利益		**－**	**224**	**－**	**－**
販売費及び一般管理費 （研究開発費）		**－** （51）	**221** （45）	**－** （-6）	**－** （87.5）
営業利益		**-3**	**3**	**+6**	**－**
経常利益		**-1**	**7**	**+8**	**－**
親会社株主に帰属する中間純利益		**0**	**-16**	**-16**	**－**

■売上高

新医薬品等（国内）：-3億円

上振要因 ベオーバ過達

下振要因 ラスビック、ムコダインの未達

後発医薬品：+2億円

上振要因 オーソライズド・ジェネリックの上振れ

■販売費及び一般管理費

研究開発費：-6億円

■特別損失

後発医薬品事業承継に伴う事業譲渡損 25億円

2027年3月期 第2四半期（中間期） 業績のポイント／対前年

（単位：億円）

		26年3月期 中間期実績	27年3月期 中間期実績	対前年 差異	対前年 増減率（%）
売上高		**587**	**575**	**-12**	**-2.1**
	新医薬品等（国内）	414	404	-10	-2.5
	新医薬品（海外）	5	2	-3	-53.0
	後発医薬品	168	169	+1	+0.4
売上原価		**338**	**351**	**+13**	**+3.8**
売上総利益		**249**	**224**	**-25**	**-10.1**
販売費及び一般管理費 （研究開発費）		**235** （54）	**221** （45）	**-14** （-9）	**-6.2** （-18.0）
営業利益		**14**	**3**	**-11**	**-77.6**
経常利益		**16**	**7**	**-9**	**-56.4**
親会社株主に帰属する中間純利益		**15**	**-16**	**-31**	**－**

■売上高

新医薬品等（国内）：-10億円

増加要因 ベオーバの伸長

減少要因 薬価改定（杏林製薬4%台）、
後発医薬品参入によるデザレックスの売上減

新医薬品（海外）：-3億円

減少要因 ガチフロキサシンに関わる収入の反動減

後発医薬品：+1億円

増加要因 オーソライズド・ジェネリック、
2026年度発売の追補収載品の売上寄与

■販売費及び一般管理費：-14億円

研究開発費：-9億円

導入品の契約一時金支出の反動減（KRP-A225） 15億円

販管費（研究開発費除く）：-5億円

コスト削減、特許等使用料は増加

■特別損失

後発医薬品事業承継に伴う事業譲渡損：25億円

2027年3月期 第2四半期（中間期） 製品別売上状況

（単位：億円）

		27年3月期 中間予想	27年3月期 中間実績	対予想		26年3月期 中間実績	対前年	
				差異	達成率（%）		増減額	増減率（%）
新医薬品等（国内）	ベオーバ（自社販売分）	129	**144**	+15	111.3	123	+21	+17.0
	ラスビック	39	**35**	-4	90.4	35	0	+0.1
	フルティフォーム	59	**59**	0	99.9	63	-4	-6.6
	リフヌア	5	**4**	-1	83.3	5	-1	-10.6
	ムコダイン	24	**19**	-5	80.4	20	-1	-2.6
	ペンタサ	51	**53**	+2	103.3	63	-10	-15.9
	デザレックス	16	**16**	0	100.6	37	-21	-56.1
	キプレス	4	**6**	+2	139.7	9	-3	-40.4
	ミルトン	9	**8**	-1	89.0	9	-1	-14.3
	ルビスタ	3	**3**	0	115.5	4	-1	-15.0
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	43	**47**	+4	110.1	44	+3	+7.7
	モメタゾン点鼻液「杏林」	10	**10**	0	95.9	11	-1	-14.4

2027年3月期 連結業績予想

（単位：億円）

		26年3月期（実績）	27年3月期（当初予想）	27年3月期（修正予想）	当初予想との差異
売上高		**1,263**	**1,218**	**1,218**	**0**
	新医薬品等（国内）	871	835	835	0
	新医薬品（海外）	7	3	3	0
	後発医薬品	385	379	379	0
売上原価		**746**	**－**	**－**	**－**
販売費及び一般管理費 **（研究開発費）**		**481** **（121）**	**－** **（93）**	**－** **（162）**	**－** **（+69）**
営業利益		**36**	**20**	**-49**	**-69**
経常利益		**40**	**23**	**-46**	**-69**
親会社株主に帰属する当期純利益		**34**	**15**	**-51**	**-66**

■研究開発費

導入に伴う契約一時金支出：ARDS治療薬「EB05」 12Mドル
確実性が高まった導入品に係る契約一時金

■特別損失

後発医薬品事業承継に伴う事業譲渡損：25億円

2027年3月期 製品別売上予想 ※当初予想の変更なし

（単位：億円）

		26年3月期（実績）	27年3月期（予想）	対前期	
				増減額	増減率(%)
新医薬品等（国内）	ベオーバ(自社販売分)	258	267	+9	+3.3
	ラスビック	73	90	+17	+23.5
	フルティフォーム	128	123	-5	-3.9
	リフヌア	9	10	+1	+7.7
	ムコダイン	37	54	+17	+46.2
	ペンタサ	123	102	-21	-17.4
	デザレックス	102	23	-79	-77.5
	キプレス	22	10	-12	-54.1
	ミルトン	18	18	0	-0.6
	ルビスタ	8	7	-1	-11.4
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	114	101	-13	-11.7
	モメタゾン点鼻液「杏林」	45	39	-6	-13.8

中期経営計画「Vision 110 −Stage2−」の位置付けと5つの事業戦略

Kyorin

成長投資による収益基盤の確立

Stage2 | 2026-2029年度

ステートメント

持続成長に向けた積極的な投資

持続的な成長エンジンとなる導入品等の獲得を最優先
獲得に伴う一時金等により、損益や資金面で厳しい状況になることが想定されるが、
中長期的な持続成長のために確固たる信念を持って推進

5つの事業戦略を推進

1. 積極的な導入投資による開発パイプラインの拡充
2. 医療ニーズに応える価値の高い新薬の創出力強化
3. 新薬の普及最大化
4. 新医薬品事業と相乗効果のある健康関連事業の推進
5. 持続可能な企業基盤の構築

事業体制の変革

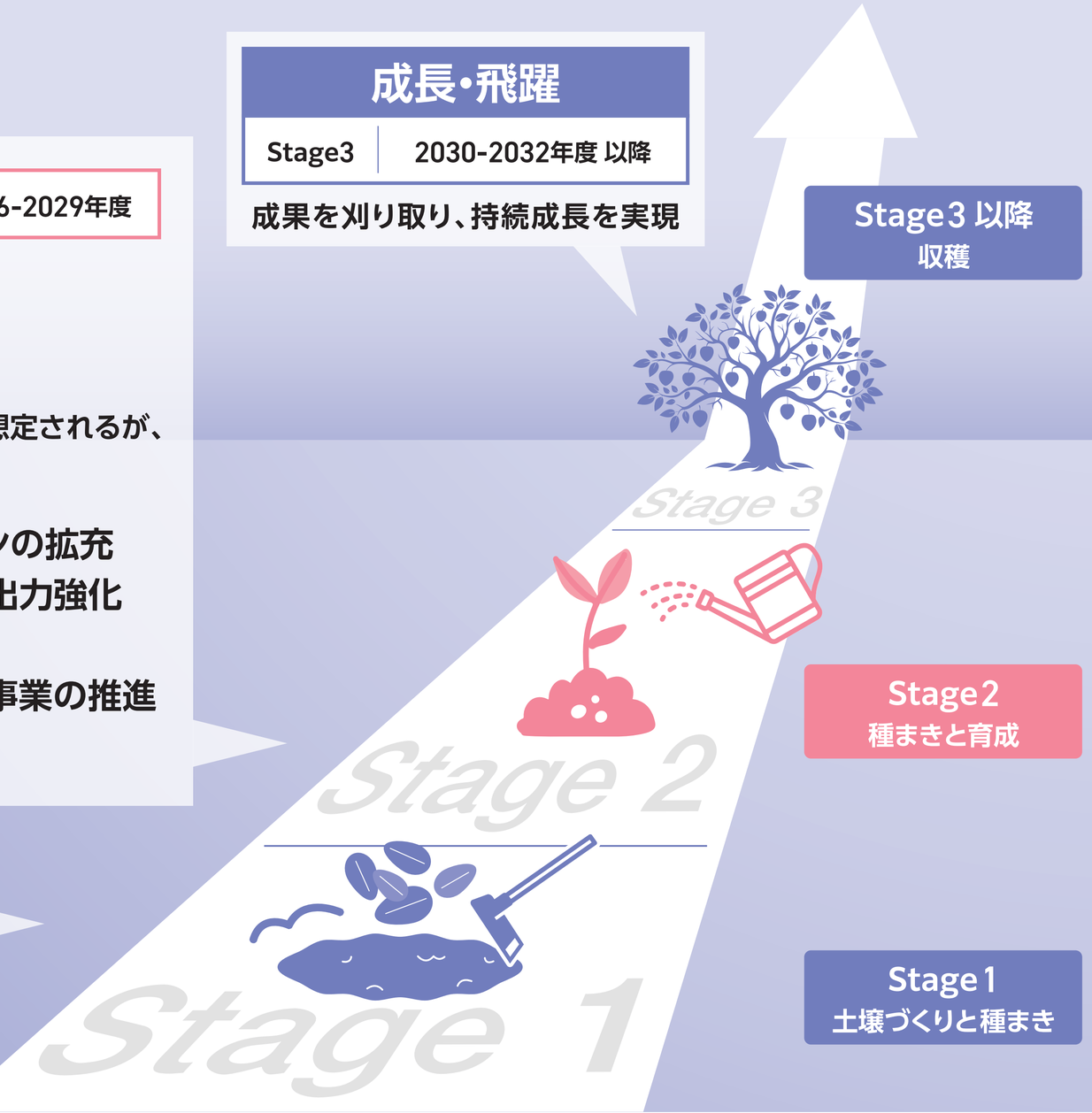
Stage1 | 2023-2025年度

新薬の創出力強化と
開発パイプライン拡充のための
体制づくり

成長・飛躍

Stage3 | 2030-2032年度 以降

成果を刈り取り、持続成長を実現



Stage3 以降
収穫

Stage2
種まきと育成

Stage1
土壌づくりと種まき

Stage2の導入目標：累計10件以上の導入の達成

- モダリティや疾患領域を問わず、幅広い導入活動を展開
- あらゆる手段を駆使し、早急に、確実に導入品を獲得する

26年度実績（11月9日現在） 2件達成

●Edesa社：ARDS治療薬候補「EB05」
●参天製薬：アレジオン眼瞼クリーム0.5%

今後の見通し

後期開発品・販売提携等の導入に向け交渉中であり、
2026年度下期に複数の契約締結を目指す

ARDS治療薬「EB05」について

一般名	Paridiprubart
対象疾患	ARDS（急性呼吸窮迫症候群）
作用機序	TLR4モノクローナル抗体 （TLR4シグナルを特異的に阻害し、全身の炎症反応を抑制）
剤形・用法	点滴静注（単回投与）
開発状況	日本におけるPhase3試験の2028年度開始を目指す
経済条件	契約一時金 12百万米ドル 開発の進展に応じたマイルストン、販売マイルストン 最大134百万米ドル 売上ロイヤリティ

死亡リスクの低減を示す画期的なARDS治療薬としての開発
（Stage3期間中の上市を目指す）

ARDS（急性呼吸窮迫症候群）について

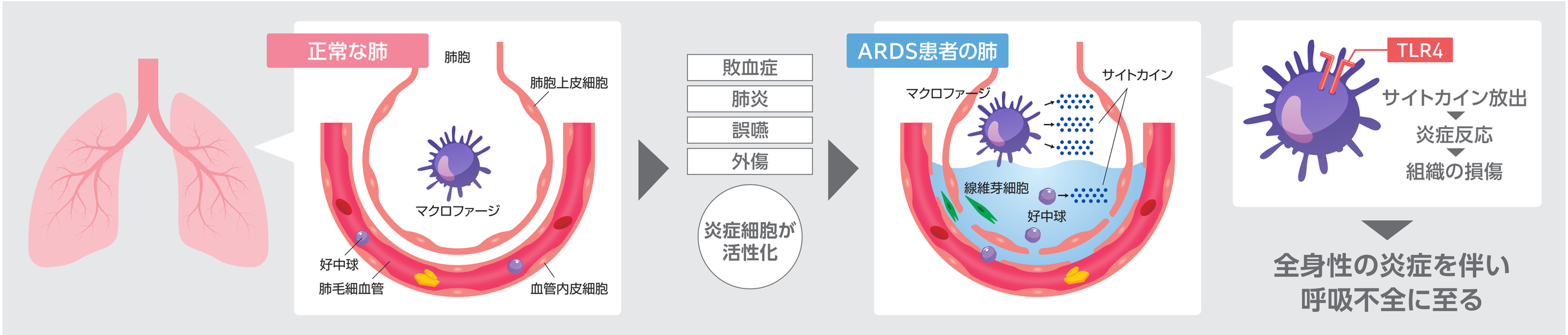
ARDS
（急性呼吸窮迫症候群）

急激な重度の呼吸不全を発症する病態の総称
予後：不良、死亡率：30～58%※
患者数：>10,000人/年（当社試算）

ARDSの現行治療

呼吸管理療法：人工呼吸器
薬物療法：炎症抑制のため低用量のステロイドの使用
　現状で死亡リスクを低減する有効な薬物療法は確立されていない

ARDS発症機序



ARDSは有効な治療薬が存在しない高いアンメットメディカルニーズのある疾患

※ARDS診療ガイドライン2016

ARDS治療薬「EB05」の開発状況（Edesa社実施）

SARS-CoV-2 感染に伴うARDS患者を対象としたランダム化プラセボ対照二重盲検Phase3試験

有効性

■重症患者（侵襲的人工呼吸管理）に限定した集団において、28日及び60日後死亡率の統計学的に有意な減少
- □ 調整後死亡リスク（Day28, n=104）：EB05+SOC群 39% vs プラセボ+SOC群 52% (p<0.001)
- □ 調整後死亡リスク（Day60, n=104）：EB05+SOC群 46% vs プラセボ+SOC群 59% (p=0.003)

SOC：標準治療

■WCSSスコアを2ポイント改善※した割合（Day28）：EB05群 38%　プラセボ群 27% (p<0.05)

※ICUを退室し、侵襲的人工呼吸（IMV）や臓器サポートを必要としない状態になったことを示唆

【探索的解析】

■肺炎併発患者、敗血症併発患者、急性腎障害併発患者を含むサブグループにおいても治療効果

■軽症～中等症患者を含む全体集団（n=278）においても統計学的に有意な死亡リスクの低減

安全性

良好な忍容性、安全性プロファイル

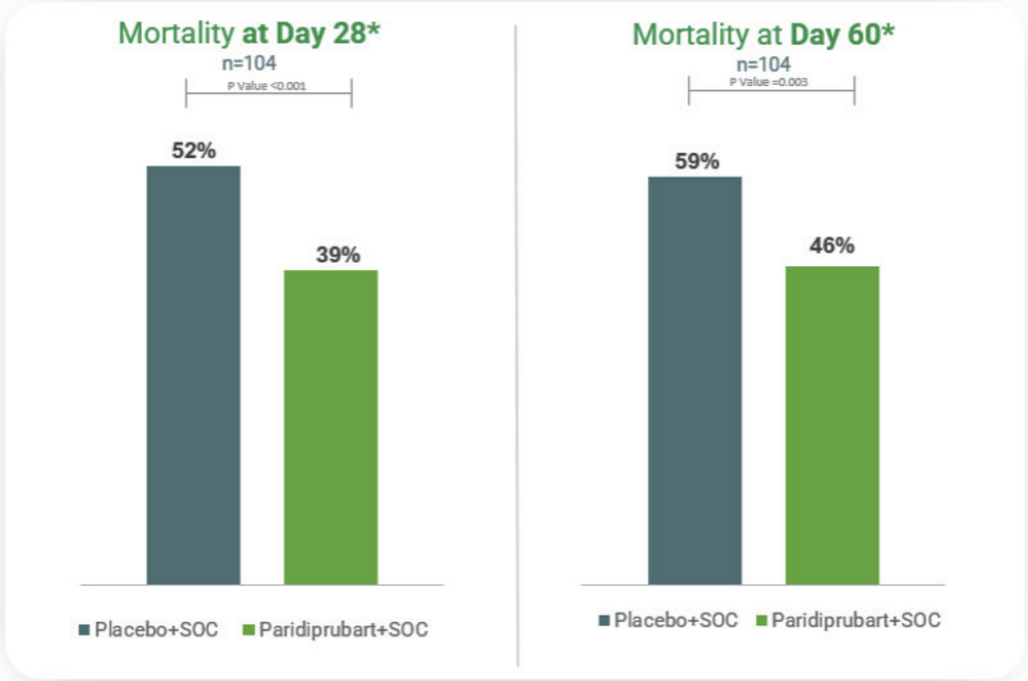
General ARDS患者での承認取得を目指し、グローバルPhase3試験を実施予定

死亡リスクの低減を示す画期的なARDS治療薬として開発

〈参考〉Phase3 試験（Edesa社公表データ）

Phase 3 Results – Primary Endpoint 28-Day Mortality

Paridiprubart Met Primary and Secondary Endpoints with Statistical Significance



* Estimated risk of mortality using multivariate logistic regression derived risk differences (95% confidence interval). Final Phase 3 protocol comprised ICU patients with ARDS (mild/moderate/severe); Invasive Mechanical Ventilation and/or patients receiving organ support/ECMO; Company opted to truncate enrolment for business reasons: 104 Patients enrolled in per protocol population; 278 patients enrolled in intent-to-treat and safety populations. Subject randomized 1:1 placebo plus standard of care (SOC) treatment or paridiprubart + SOC.

Edesa Biotech

Summary of Phase 3 Results

28-Day Mortality Rate: Paridiprubart had a relative reduction in the risk of death of 25% compared to placebo

60-Day Mortality Rate: A durable survival benefit was also demonstrated. Paridiprubart had a relative reduction in the risk of death of 22% vs. placebo

Clinical Improvement at Day 28: Paridiprubart showed a 41% higher relative rate of clinical improvement, meaning patients no longer required IMV and/or organ support

Other Signals: Paridiprubart reduced mortality in a population that included patients not on IMV

Safety Population: Favorable safety profile in 278 subjects

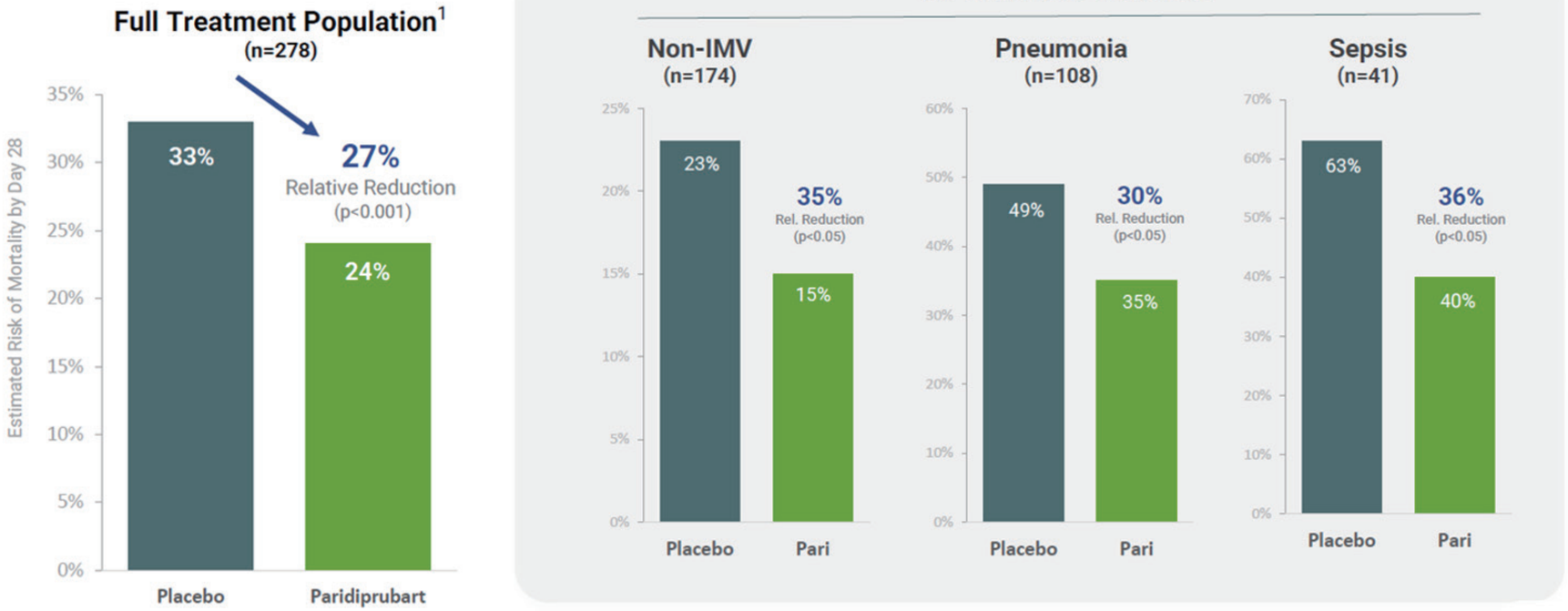
Edesa Biotech Corporate Overview

<出典> Edesa’s ccorporate presentation,
https://www.edesabiotech.com/wp-content/uploads/2026/10/EdesaBiotech-EDSA-Presentation-Oct2026.pdf

〈参考〉Phase3 試験（Edesa社公表データ）

Phase 3 Study – Additional Analysis

Survival Benefit Observed in Broader Population, Across Severity Groups and in Subjects with Serious Comorbidities



Edesa Biotech

1) The results represent a broader, 278-patient population, which includes both previously reported 104 patients requiring invasive mechanical ventilation (IMV) as well as 174 non-IMV patients. All subjects received placebo or paridiprubart plus standards of care. Estimated risk of mortality using multivariate logistic regression derived risk differences (95% confidence interval). 2) Nominal p-value, not adjusted for multiplicity. Source: Edesa Press Release

Edesa Biotech Corporate Overview

<出典> Edesa's ccorporate presentation,
https://www.edesabiotech.com/wp-content/uploads/2026/10/EdesaBiotech-EDSA-Presentation-Oct2026.pdf

アレジオン眼瞼クリーム0.5%について

2026年 7月 参天製薬(株)と共同販売促進契約締結

2026年 8月 当社でのプロモーション開始(眼科以外)

経済条件	●契約一時金はなし ●売上とディテール数に応じたコプロモーションフィーを受領
特徴	●1日1回眼の周りに塗布するクリーム剤 ●用法遵守や負担軽減によりアドヒアランス向上が期待
取り組み	●強固な営業基盤を持つ耳鼻科・内科等に営業リソースを投入 ●花粉症シーズンに限らず年間を通したプロモーションを実施 ●薬効発揮のための適切な服薬指導を啓発

痒みの発生を抑えるプロアクティブ投与の治療概念を高め、患者さんが終日快適に生活できることを目指す



4回/1日

アレジオン
点眼液0.05%



2回/1日

アレジオンLX
点眼液0.1%



1回/1日

アレジオン
眼瞼クリーム0.5%

写真提供:参天製薬(株)

アレルギー性結膜炎患者さんに対し目のかゆみを忘れた生活(かゆみのない世界)を提供する

研究開発パイプラインの状況

※前回発表（1Q）からの変更点（2026年11月9日現在）

	製品名・開発コード	Ph1	Ph2	Ph3	申請	承認・上市
呼吸器	KRP-S124※ 閉塞性睡眠時無呼吸治療薬					
呼吸器	EB05※ 急性呼吸窮迫症候群			準備中		
泌尿器	KRP-114VP 過活動膀胱治療薬					
自己免疫疾患	KRP-A225 全身性エリテマトーデス治療薬	海外（ヒンジバイオ社）				
疼痛	KRP-126※ 神経障害性疼痛治療薬					

DTx

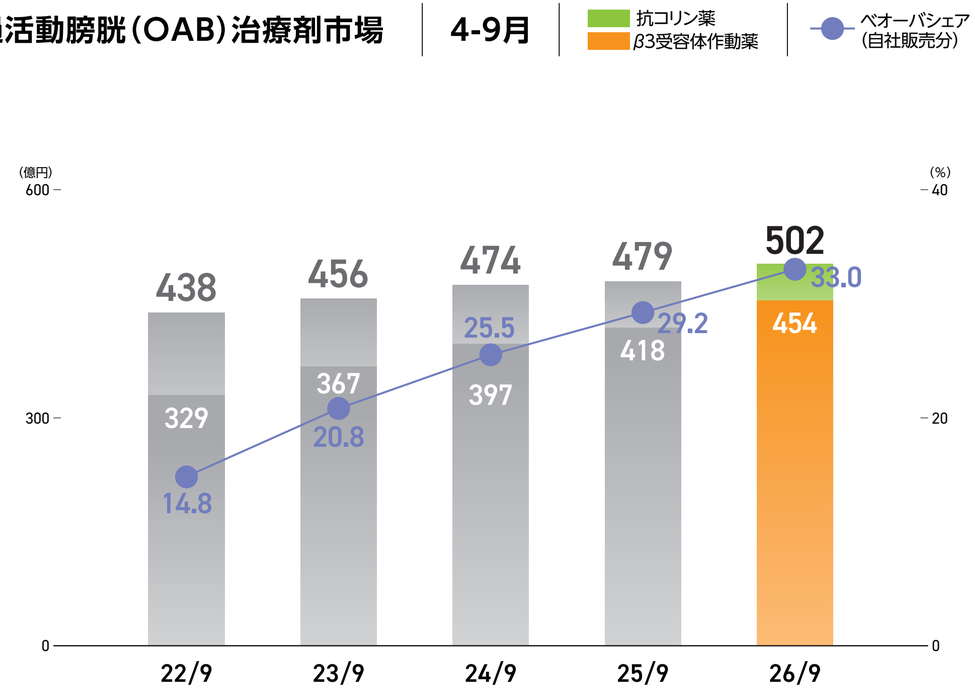
	製品名・開発コード	研究・開発[1]	検証的試験[2]	申請	承認・上市
耳鼻科	KRP-DT123 耳鳴治療用アプリ				
呼吸器	KRP-DC125 慢性咳嗽治療用アプリ				

1）研究・開発：主にアプリ開発、アプリの性能や有効性を確認
2）検証的試験：主にアプリの臨床的意義を確認

	開発コード	導出先	開発段階	備考
導出品	KRP-M223	ノバルティス社	前臨床	●MRGPRX2拮抗作用 ●対象：マスト細胞が関与するアレルギー性疾患、炎症性疾患

主力品の状況／ベオーバ（過活動膀胱治療剤）

■過活動膀胱（OAB）治療剤市場　4-9月



出典：Copyright ©2026 IQVIA. JPM 2022年-2026年（各4-9月）を基に自社分析 無断転載禁止

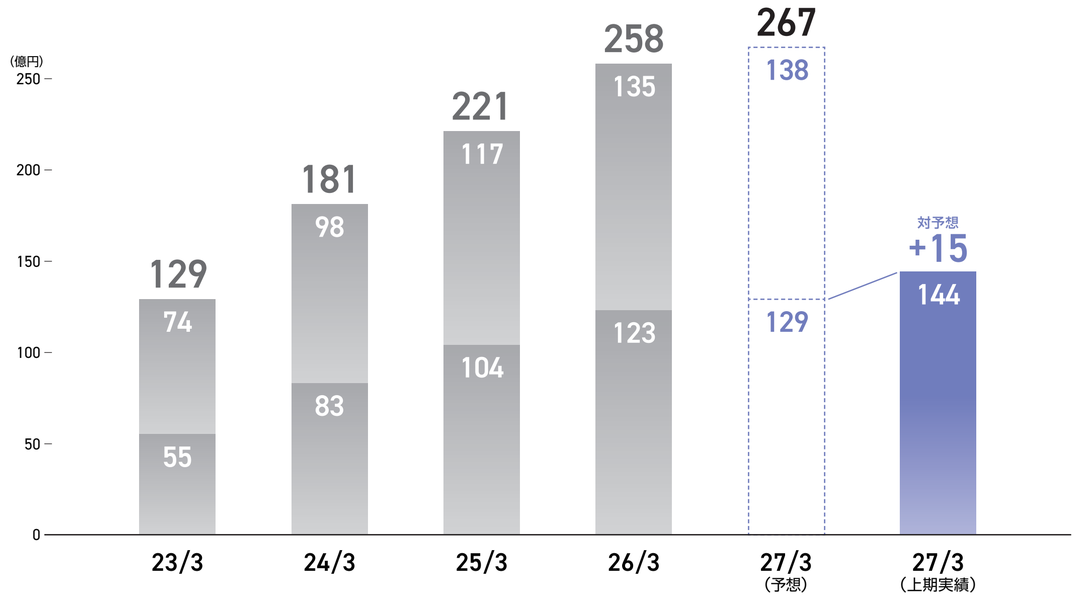
市場概況

- ●過活動膀胱治療剤市場：4.9%拡大[注1]
- ●β3アドレナリン受容体作動薬市場の拡大[注1]

中長期 市場見通し

- ●OAB患者数は増加傾向
- ●薬価改定の影響等はあるものの β3アドレナリン受容体作動薬市場は拡大

■売上高　下期／上期



26年度の取り組み

- ●一般内科での患者シェア拡大
- ●受診率増加に向けた疾患啓発
- ●新規エビデンスの浸透

26年度 上期の状況

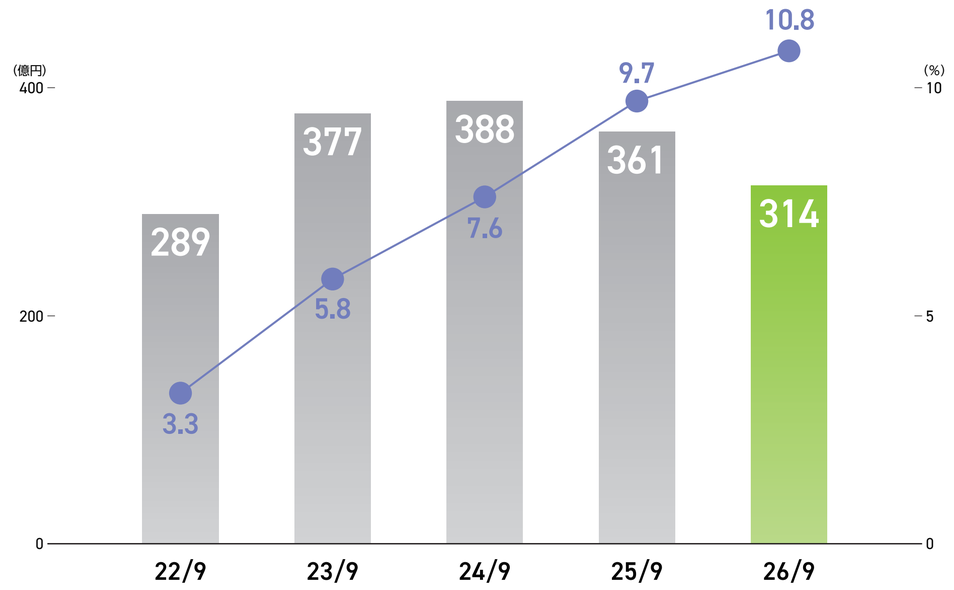
- ●OAB市場売上No.1を継続[注2]
- ●新規患者獲得率及び患者シェアNo.1を継続[注2]
  [2026年4月薬価基準改定率：▲4.24%]

注1：Copyright ©2026 IQVIA. JPM 2025年4-9月、2026年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止

注2：併売会社との2社合計
Copyright ©2026 IQVIA. JPM 2026年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止
IQVIA Rx 2026年9月を基に自社分析 無断転載禁止

主力品の状況／ラスビック（ニューキノロン系抗菌剤）

■経口抗菌剤市場　4-9月



出典：Copyright ©2026 IQVIA. JPM 2022年-2026年（各4-9月）を基に自社分析 無断転載禁止

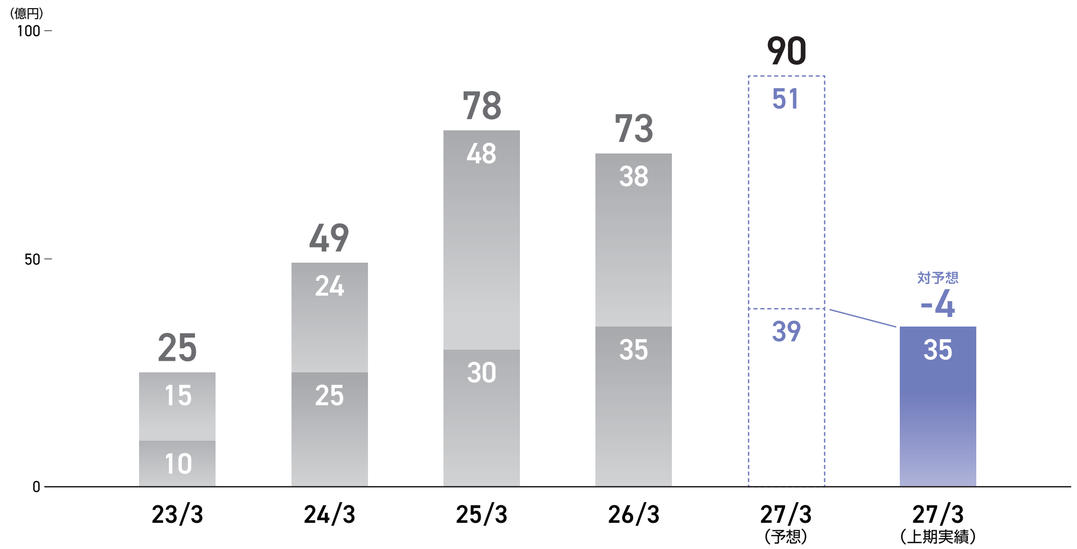
市場概況

- ●経口抗菌剤市場：13.1%縮小[注1]
- ●呼吸器感染症の流行が例年より下火となった

中長期 市場見通し

- ●AMR対策の推進により
  呼吸器・耳鼻科での経口抗菌剤の処方は抑制傾向

■売上高　下期／上期



26年度の取り組み

- ●各ガイドラインに沿った治療と治療薬の選択を広く啓発し、
  肺炎に加え、患者数の多い咽頭・喉頭炎、副鼻腔炎、気管支炎などへの
  処方提案を推進
- ●ラスビックの独自性と新しいポジションの明確化

**26年度
上期の状況**

- ●シェアの確実な伸長 25年4-9月9.7% → 26年4-9月10.8%[注1]
- ●経口NQ市場における売上シェアNo.1を継続[注1]
  [2026年4月薬価基準改定率：▲2.77%（錠）、0.96%（注）]

注1：Copyright ©2026 IQVIA. JPM 2025年4-9月、2026年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止

主力品の状況／サチュロの普及最大化※

※規制当局からの適応追加の承認取得を前提

- ラスビックの活動基盤であるHP、GP市場における広範なカバレッジを活かして処方機会を創出
- 新製品と同等のプロモーション活動を展開
- 適応追加の承認後、肺MAC症治療薬としてのポジション確立

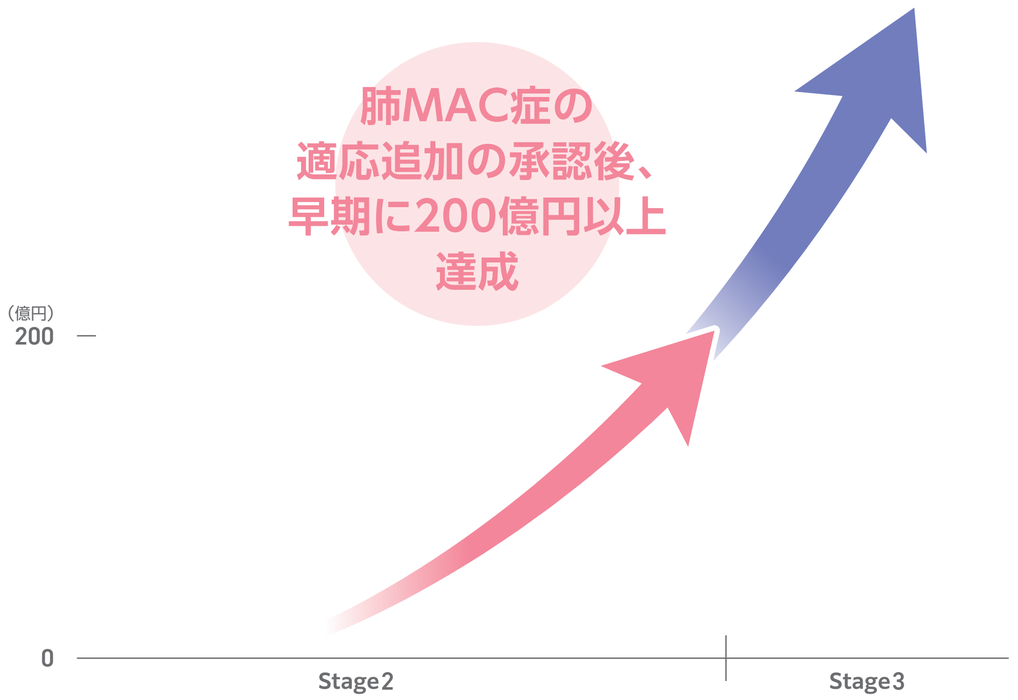
多剤耐性肺結核（発売中）

疾患	結核薬イソニアジド（INF）、リファンピシン（RFP）に耐性のある結核菌による肺結核
患者数	2024年新登録肺結核菌陽性結核患者6,423人、 多剤耐性肺結核患者（INH、RFP両剤耐性）45人
薬価	21,636.50円（2026年4月時点）

治療抵抗性肺MAC症（適応追加申請中、ヤンセンファーマ（株））

疾患	肺MAC症：MAC菌が肺に感染する慢性感染症
患者数	十数万人（推定） 患者数は増加傾向

■売上イメージ



●2026年6月より多剤耐性肺結核のプロモーションを開始、製品の認知度向上を目指す

●治療抵抗性肺MAC症の適応追加後、多剤耐性肺結核の売上とあわせて当社に売上が計上

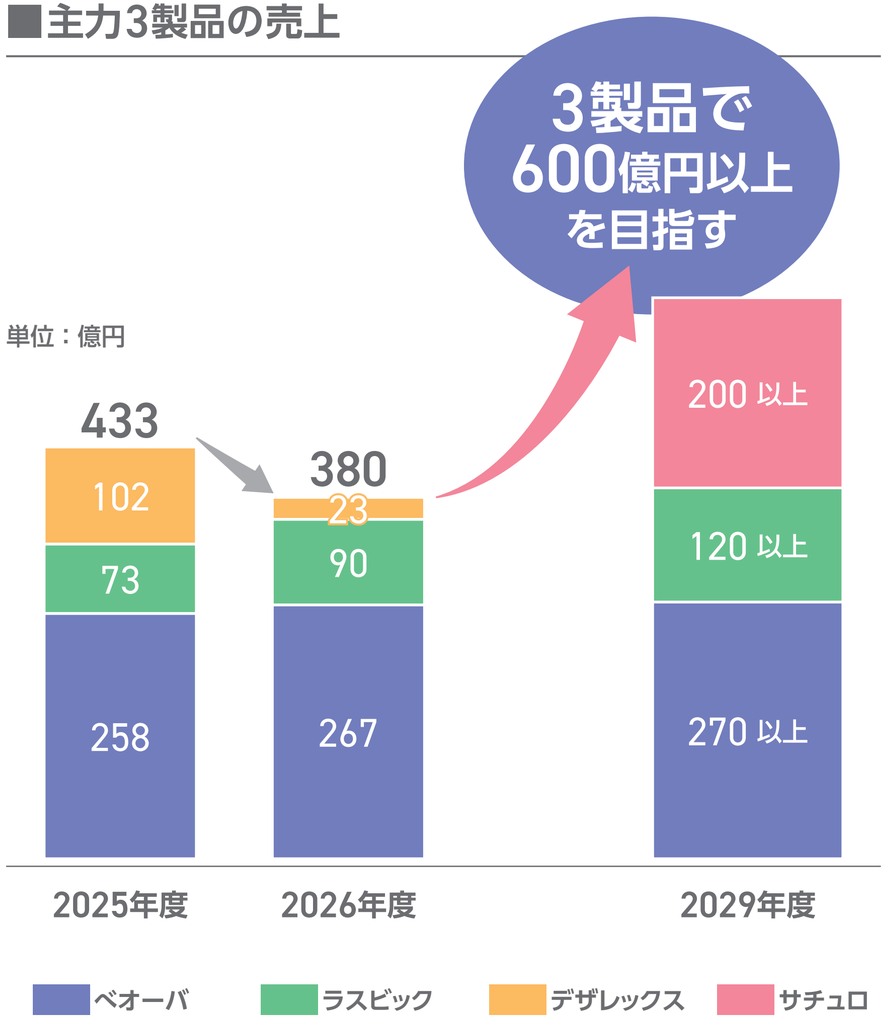
●適応追加承認後の営業活動に向け、社内体制を整備中

新薬の普及最大化

▶ 成長ドライバーであるベオーバ、ラスビックにサチュロを加えた、主力3製品の普及最大化に注力

	Stage2出口 2029年度目標	普及最大化に向けた取り組み
ベオーバ 	270億円 以上	●目標：過活動膀胱治療薬患者シェア60% （現状：48.7%）[注1] ●疾患啓発による潜在患者の掘り起こし ●泌尿器科に加え一般内科への浸透
ラスビック 	120億円 以上	●目標：経口ニューキノロン系抗菌剤市場 売上シェア50%（現状：41.7%）[注1] ●ガイドライン浸透による処方獲得 （適正使用の推進） ●高齢者／基礎疾患を有する呼吸器・耳鼻科感染症患者 へのファーストチョイスのポジション確立
サチュロ[注2] 	早期に 200億円 以上	●ラスビックの活動基盤であるHP、GP市場における 広範なカバレッジを活かして処方機会を創出 ●新製品と同等のプロモーション活動を展開 ●適応追加の承認後、肺MAC症治療薬としての ポジション確立

■主力3製品の売上



注1：Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2026年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止
注2：規制当局からの適応追加の承認取得を前提

後発医薬品事業の承継について

本事業承継の意義

当　社　事業ポートフォリオの最適化による、新医薬品事業へのリソースの集中

社　会　国内における高品質で安価な後発医薬品の安定供給に貢献

[承継対象事業]

キョーリン リメディオ㈱（オーソライズド・ジェネリック事業は除く）
キョーリン製薬グループ工場㈱の高岡工場、井波工場

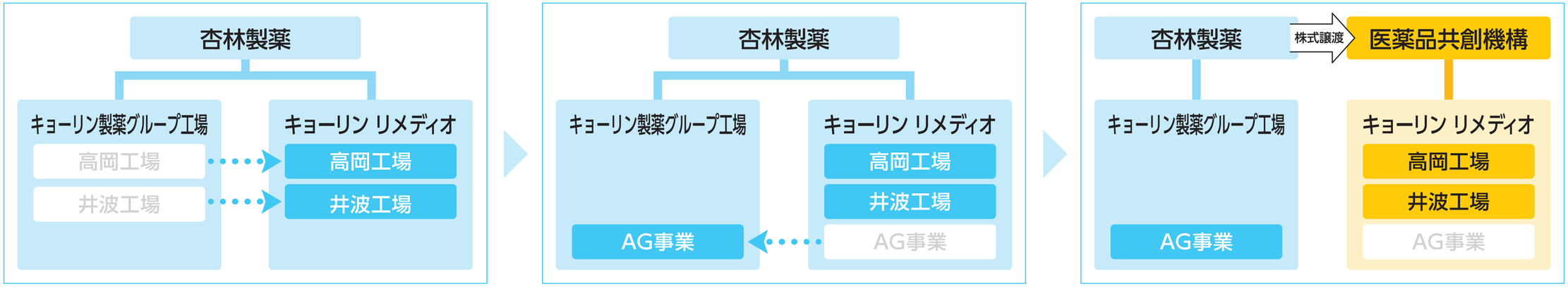
[承継先]

名称：㈱医薬品共創機構
株主：ダイト㈱、Meiji Seikaファルマ㈱、㈱日本政策投資銀行

[スケジュール]

最終契約締結日：2026年9月30日
株式譲渡実行日：2027年4月1日（予定）

後発医薬品事業の承継のスキーム



①キョーリンリメディオに高岡工場、井波工場を吸収分割

②キョーリン製薬グループ工場にAG事業を吸収分割

③キョーリンリメディオ株式を医薬品共創機構へ譲渡

Stage2における成長投資の実行

成長投資による収益基盤の確立

Stage2 | 2026-2029年度

ステートメント

持続成長に向けた積極的な投資

持続的な成長エンジンとなる導入品等の獲得を最優先
獲得に伴う一時金等により、損益や資金面で厳しい状況になることが想定されるが、
中長期的な持続成長のために確固たる信念を持って推進

5つの事業戦略を推進

1. 積極的な導入投資による開発パイプラインの拡充
2. 医療ニーズに応える価値の高い新薬の創出力強化
3. 新薬の普及最大化
4. 新医薬品事業と相乗効果のある健康関連事業の推進
5. 持続可能な企業基盤の構築

成長投資の資金

- 財務レバレッジの活用
- 後発医薬品事業承継の対価
- 運転資本の効率化
- 政策保有株式の縮減

成長投資（導入品の獲得）

2026年度 11月9日現在 2件達成	●ARDS治療薬「EB05」 ●アレジオン眼瞼クリーム0.5%
2026年度 下期	複数品目の契約締結を目指す

持続成長に向けた成長投資を着実に実行する

●将来見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。


Kyorin